玉勝間

田舎に雅言の残れること　―　現代語訳　―

一般的に田舎には、昔の言葉が残っていることが多い。特に（都から）遠く離れた国の人が話す言葉の中には、興味深いものが交じっている。私は年来気をつけて、都から遠く離れた国の人が訪ねてきたときには、必ずその国の言葉について質問し、その人が話す言葉をも、心に留めて聞いたりもするが、さらに諸国の言葉を広く聞き集めたならば、どんなにおもしろいことが多いだろう。

最近、肥後の国の人がやって来たが、その話すことを聞いていると、世間で「見える」「聞こえる」などという類いのことを、「見ゆる」「聞こゆる」などと言うようである。これは今の世の中では絶えてしまって聞かれない、優雅な言葉遣いなので、「肥後の国では、一般的にこのように言うのでしょうか。」と質問したところ、「全く山中で生活する卑しい者はみな、『見ゆる』『聞こゆる』『さゆる』『たゆる』などのように言うが、少し言葉に気をかけるほどの者は、多くは『見える』『聞こえる』のように言うのです。」と話した。それ（「見える」「聞こえる」など）はかえって今の世の中の俗な言い方なのであるが、ふつう諸国の人が（そう）言うことから、それをよいことと心得たようだ。

いずれの国であっても、山に住む卑しい者が話す言葉は、なまりはあるが、多くは昔の言葉を言い伝えているが、人が密集してにぎわっている里などは、他国の人も入り交じり、都の人なども、折に触れて往来などするうちに、（そういう里の人々は）自然とあちらこちらの言葉を聞き習っては、自分も言葉を選んで、なまじ賢そうな現代風に移りやすく、昔風から遠くなり、かえって卑しくなっていくようだ。

そうそう、同じ肥後の国の人で、別の人が言ったことだが、「その（肥後）の国で、『ひきがへる』というものを、『たんがく』と言うのだが、それは、昔の『たにぐく』のなまりであろうと思われる。」と話したのは、本当にそうであろう。このようなことは、諸国でもっと聞いていることは多いが、今ふっと思い出したことを言うのである。さらに思い出すままに、また言おう。